

サマスタ

SUMMER STUDIO  
—  
2016

## SUMMER STUDIO 2016

### REPORT

サマスタ

SUMMER STUDIO

2016

7.16(土)

9.17(土)

幅広い分野の  
学生を募集中!

造園・建築・都市  
計画・土木・観光  
健康・体育・社会  
経済・経営・教育  
など

2016年テーマ  
東京ベイを考える  
東京湾臨海部に  
オリンピック・パラリンピック  
パークを提案する

公益社団法人 日本造園学会関東支部  
第12回 学生デザインワークショップ  
サマースタジオ2016

主催：公益社団法人 日本造園学会関東支部 ○詳細は造園学会関東支部HPをご覧ください <http://www.kanto.jila-zouen.org/designws/designws-index.htm>

告知フライヤー

サマスタ

2016

SUMMER STUDIO

### 開催趣旨

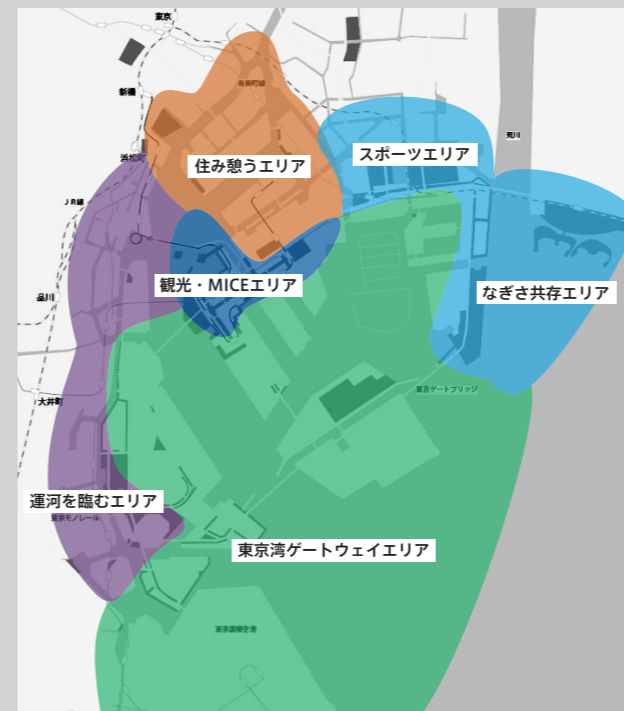
2015年の第11回目から2020年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「世界都市東京」の将来像を提案していく。世界的に都市への人口集中が起こっており、都市の課題を解決することは社会的インパクト大である。現在だけでなく2020年以降未来まで目を向ければ、高齢化・人口減少など、かつて人口爆発が起こった時代の都市開発とは異なる課題が山積している。パラダイムシフトが起きた社会に対し、都市のあるべき姿を発信し、具体的な変化を起こすことを目指す。2016年は、競技施設の半数以上が集まる東京湾臨海部にある海上公園を手掛かりに、東京オリンピック・パラリンピッ

ク大会時そして大会後を踏まえた公園を提案する。大会時、臨海部には、世界中から多くの人を訪れることが予想され、公園は東京を発信する重要な場所となる。また大会後は、安全・安心に住み続けられる街の実現に寄与するインフラストラクチャーとして機能する必要がある。

かつて、東京ベイエリアは豊富な魚介類に恵まれ、また、水遊びや釣りなどが楽しめる憩いの場であり、人々の日常生活と深いつながりのある空間だった。海が果たしてきた役割を改めて見直し、東京の将来像を議論し提案する。

サマースタジオHP：<http://www.kanto.jila-zouen.org/designws/designws-index.htm>

### 東京湾臨海部6つのエリアを5つに分け、各チームが担当



- A team 品川シナジー** 運河を臨むエリア  
芝浦・品川・大井・平和島
- B team NIGHT ACTIVITY PARK** 観光・MICEエリア  
台場・青海・有明南
- C team 憩う帯** 住み憩うエリア  
月島・晴海・豊洲・有明北
- D team 翠線** スポーツエリア  
なぎさ共存エリア  
辰巳・夢の島・若洲・葛西
- E team Mt. Heisei** 東京湾ゲートウェイエリア  
第一、二、三航路周辺

「海上公園を中心とした水と緑のあり方について 答申(案)」  
平成28年5月 東京都港湾審議会より引用

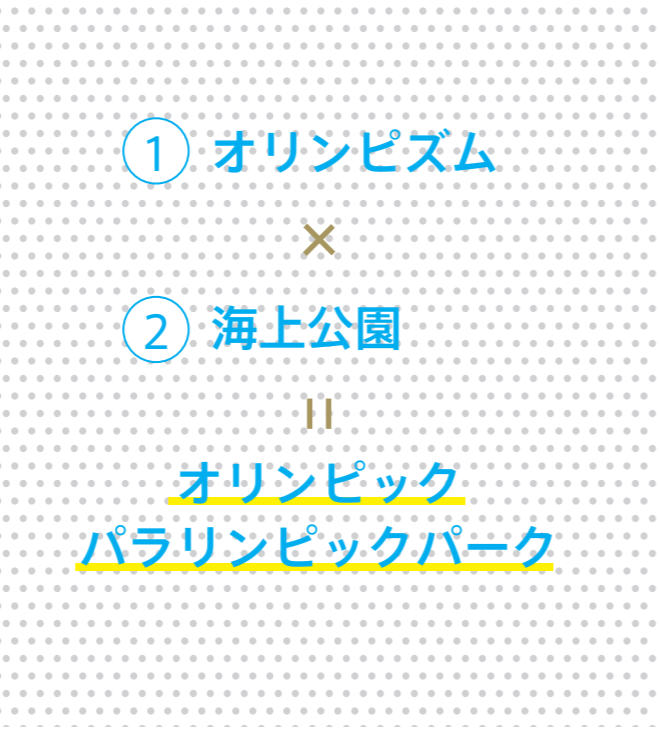
## 提案するオリンピック・パラリンピックパークとは何か

### 1 オリンピズム

オリンピック・パラリンピックの根幹には、「オリンピズム」という理念が存在する。これは近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタン男爵が提唱したオリンピックのあるべき姿である。クーベルタンが考えるオリンピズムとは、「スポーツを通じて心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」ことである。世界平和に貢献することを目指した。

### 2 海上公園

かつての東京の海は豊富な海洋資源に恵まれ、住民の一大食糧供給源であるとともに、釣りや水遊びなどが行われるなど住民のレクリエーション、交流の場として、住民に身近で重要な存在であった。しかし、高度経済成長期から大規模な埋め立てが行われ、造成された臨海地域に多くの工場が建設された。住民は、経済成長と反比例するかのようになり、身近な海と触れ合う場、機会を失っていった。かつて海との共生で享受していたであろう「心の豊かさ」を失ったひずみは、少しずつ蓄積され、現代に自然保護運動などとして顕在化したことは、ある意味当然であるように思う。東京都は、これまでの経緯と反省を踏まえ、東京湾を東京の「海」としての存在意義を改めて見つめ、都民が憩える場として利用できる公園を埋め立て地に整備した。これが「海上公園」である。



**クーベルタン**  
Pierre de Coubertin 1863 ~ 1937  
フランスの教育学者、国際オリンピック委員会 (IOC) の創立者。男爵家の三男としてパリで生まれ、1884 年イギリスのパブリック・スクールを視察し、宗教とスポーツを重視する教育方針に強い感銘を受ける。スポーツの教育的価値を強く認識し、祖国の再建を青少年へのスポーツの普及により果たそうと考えた。

## オリンピックの歴史とこれから 近代のオリンピック=政治に翻弄された



クーベルタンの提唱により、第 1 回オリンピックを 1896 年ギリシャ王国アテネで開催することになった。資金集めに苦勞し、会期も 10 日間と短かったが、バルカン半島の小国の一つという国際的地位をいっそう向上させたいというギリシャ王国の協力もあり大成功に終わった。しかし、1900 年のパリ大会、1904 年のセントルイス大会は同時期に開催された万国博覧会の附属大会に成り下がってしまい、賞金つきの競技 (1900 年)、キセルマラソンの発覚 (1904 年) など大会運営

にも不手際が目立った。1908 年のロンドン大会、1912 年のストックホルム大会から本来のオリンピック大会としての体制が整いだした。1908 年のロンドン大会ではマラソンの走行距離は 42.195km であったがこれが 1924 年パリ大会以降固定され採用されている。この時期には古代オリンピックに倣いスポーツ部門と芸術部門のふたつ競技会が開催されており、クーベルタンも 1900 年パリ大会で芸術部門で金メダルを獲得している。

### 現代のオリンピック=商業主義化した

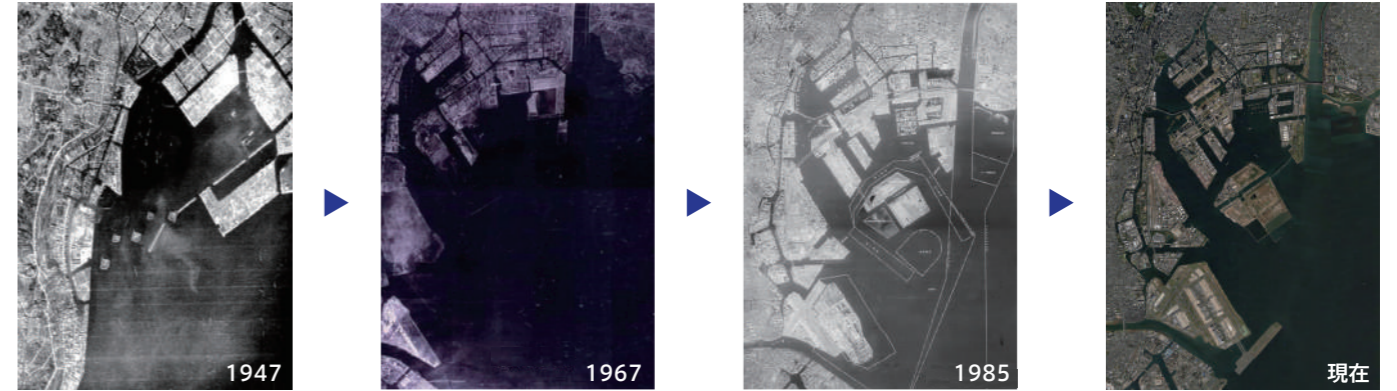
1984 年のロサンゼルス大会は画期的な大会で、大会組織委員長に就任したピーター・ユベロスの指揮のもとオリンピックをショービジネス化し、結果として 2 億 1500 万ドルの黒字を計上した。スポンサーを「一業種一社」に絞ることにより、スポンサー料を吊り上げ聖火リレー走者からも参加費を徴収することなどにより黒字化を

達成したのである。その後「オリンピックは儲かる」との認識が広まり立候補都市が激増し、各国のオリンピック委員会とスポーツ業界の競技レベル・政治力・経済力などが問われる総力戦の様相を呈する様になり、誘致運動だけですら途方もない金銭が投入されるようになってゆく。また、開催国は競技場の整備等

## 東京湾臨海部の変遷

東京港は、水深が 2 ~ 4m と遠浅の海のため小型の船しか利用できない港でした。このため、古くから遠浅の海を利用して埋立が行われてきました。東京港では海を浚渫し、水路を掘削することによって発生した大量の浚渫土砂を利用して広

大な埋立地を造成しました。これらの貴重な埋立地は、ふ頭施設などの物流サービス用地ばかりでなく、交通施設用地、都市再開発・都市施設用地、住宅・公園等の自然の回復・新しい街づくり用地などとして活用されています。



### 3つの海上公園

東京都はこれまでの経緯と反省を踏まえ、東京湾を東京の「海」としての存在意義を改めて見つめ、都民が憩える場として利用できる公園を埋め立て地に整備した。これが「海上公園」である。

#### ■ふ頭公園

ふ頭内の環境の整備を図るとともに、みなとの景観に親しむ場所として都民の利用に供することを目的とした公園

#### ■緑道公園

臨海地域における自然環境の回復を図るとともに、緑に親しむ場所として都民の利用に供し、あわせて海上公園の一体的な利用を促進することを目的とした公園

#### ■海浜公園

水域における自然環境の保全および回復を図るとともに、水に親しむ場所として都民の利用に供することを目的とした公園

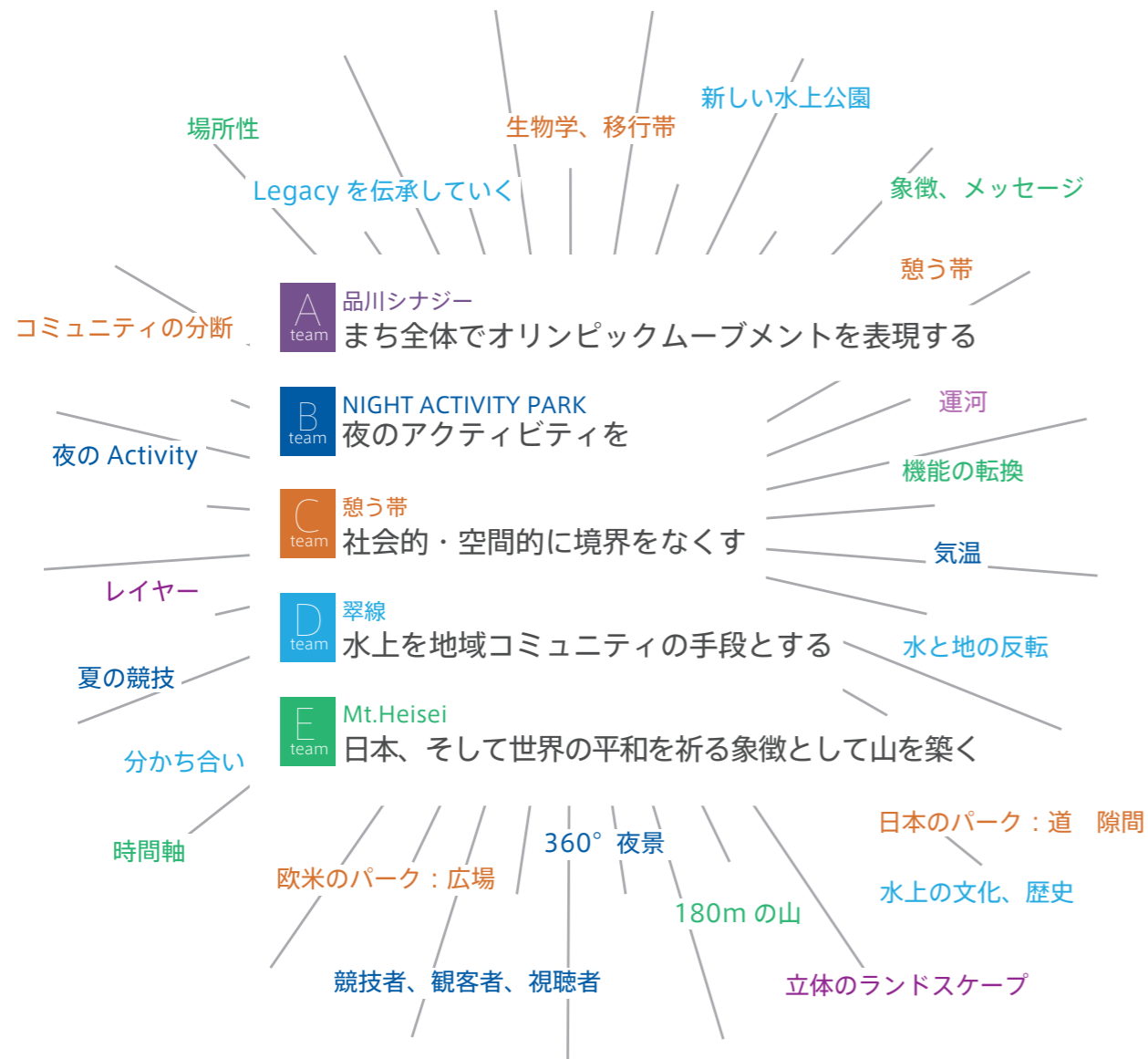


### 海上公園を活かしたレガシーとは

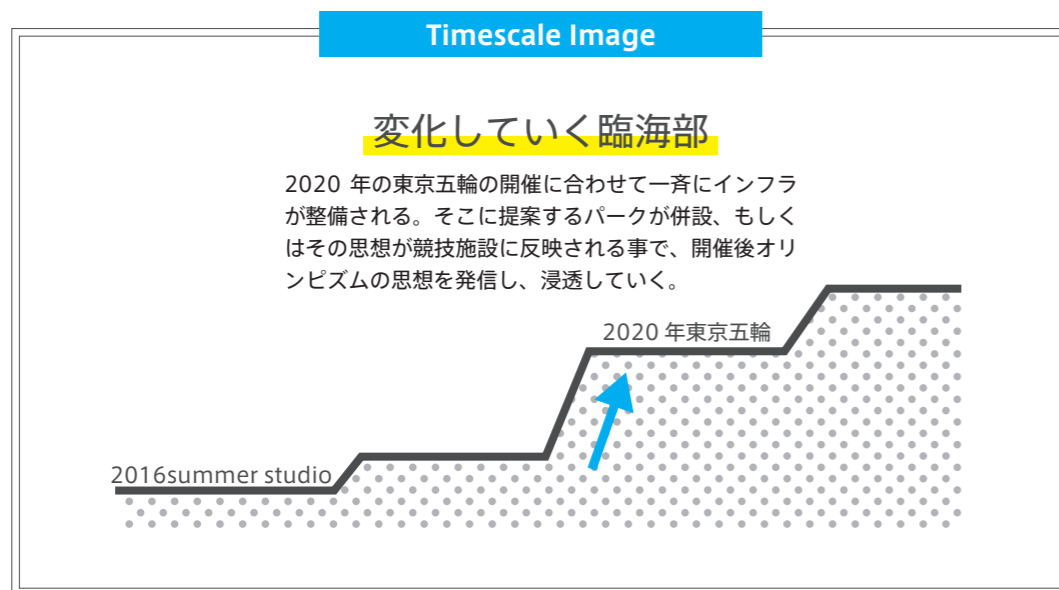
東京オリンピックでは、都市と海の新たな共生のスタイルを、これまで失われたものを取り戻しつつ、新しいものを埋め込んだ「新東京」を世界に発信する絶好の機会である。「新しいもの」は、当然、オリンピック後も良い影響を与えるレガシーであり続けることはもちろ

ん、今後のライフスタイルが多様化する中でも、都民のニーズや周辺の土地利用の変化に対応していくこと考慮する必要がある。私たちは、5 チームに分かれて夏から「これからの東京の海との付き合い方」を検討してきた。その結果を、チームごとに以下に提案する。

導き出されたキーワードと各チームのコンセプト (仮)



臨海部の魅力を段階的に高めていく



SUMMER STUDIO 2016 SCHEDULE

7/10

▶ 応募

- 500字程度のレポート提出
- a. テーマに沿ったオリンピック・パラリンピックパークのアイデアと問題意識
- b. 学生デザインワークショップへの参加動機

7/16

▶ #1ミーティング

- 初回顔合わせ / @ 東京農業大学
- 話題提供：「2020年オリンピック・パラリンピックと海上公園」—林瑞恵
- 「TOKYO GREEN 2020の活動について」—町田誠
- / リサーチフェーズチーム分け / グループワーク / 懇親会

7/31

▶ #2 ミーティング

- 話題提供：「オリンピック・パラリンピックパークとは何か」—和田浩
- 「東京オリンピック・パラリンピックと観光」—田中伸彦

8/13

▶ #3 ミーティング

- リサーチフェーズのプレゼン / チーム分け=デザインフェーズへ向けてチームを再編成

8/27

▶ 中間成果発表

- シニアチューター+チューターによるクリティーク
- 方向性の確定

9/17

▶ 成果発表

- 各チームプレゼン / シニアチューター+チューター・クリティーク
- 総括 / 学生参加者へアンケート / 打ち上げ
- コンセプトの確定

10/2

▶ @Hands Expo プレゼン

- 銀座東急ハンズ@Hanz Expo にて各チームプレゼン / ゲストクリティーク

11/27

▶ 最終成果発表

- 関東支部大会発表 会場：東京情報
- パネル展示 / 成果物発表

# 臨海部を かたちづくる 5つの提案

Planning area

2km





落合みずほ  
Mizuho Ochiai  
東京理科大学大学院  
建築学専攻 M1

summer studio  
「多角的な物の見方と都市スケールの設計の楽しさ」



堤裕哉  
Yuya Tsutsumi  
東京農業大学  
造園科学科 B3

「様々な学生や大人たちからの刺激」



斎藤香澄  
Kasumi Saito  
日本大学  
植物資源科学科 B3

「ワークショップの大変さと面白さ」



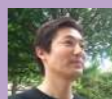
中村葵  
Aoi Nakamura  
日本大学  
植物資源科学科 B3

「みんなで意見を出し合っもの創ることの大変さ」



大林らら  
Rara Obayashi  
明治大学  
地域行政学 科 B2

「個々のアイデアを出し合い形にしていける力」



向山雅之  
Masayuki Mukoyama  
株式会社  
竹中工務店

「未来の社会をつくる学生たちの熱い心」



吉田葵  
Aoi Yoshida  
フリー

「様々な領域の専門の学生たちとデザインを考えていく楽しさ」

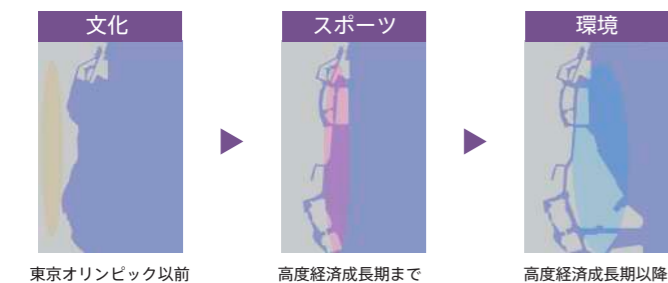
# まち全体でオリンピックムーブメントを表現するオリパラパーク

## 品川の土地・歴史

西部エリアは旧東海道や商店街など歴史や文化を根強く感じるエリアであるが、東部は首都高や物流施設が並び、東西で全く異なるエリアとなっている。

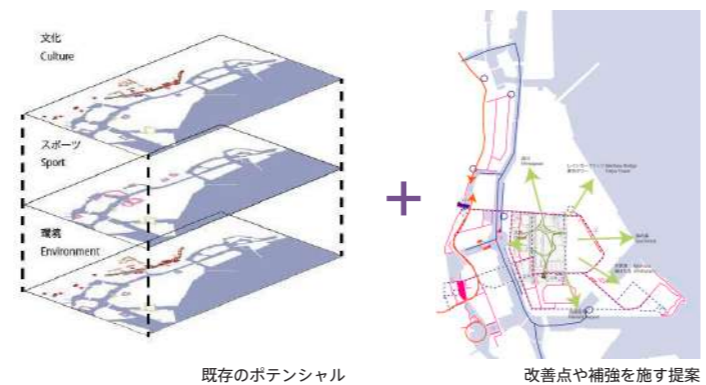


東京湾沿岸は 1964 年の東京オリンピックと高度経済成長期の大規模な工事によって埋め立てが行われた。これによりエリアごとに異なる分野が集積し、敷地の繋がりがなくなってしまった。

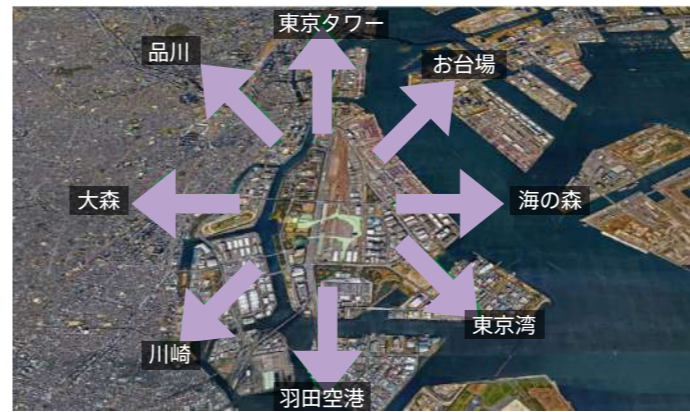


## オリンピックムーブメントを柱にまち全体を公園化

品川地区は下町や物流、運河など様々な要素がまちなかに点在しているが、その要素が活かされておらず、知名度も低い。これらの「人・自然・公園・歴史・施設」というポテンシャルをオリンピックムーブメントである「文化・スポーツ・環境」の 3 本柱を軸に、まち全体が公園のように楽しめる場所になるように提案する。品川地区全域をオリンピック・パラリンピックパークと見立て、世界に発信する。ダイアグラムとして、敷地内にある「文化・スポーツ・環境」の要素について、それぞれレイヤーを作成し、各々のレイヤーで不足している箇所、改善すべき箇所を提案し、補強行う。



## 敷地を繋ぐ空中庭園



空中庭園からの景観軸

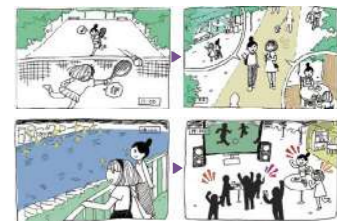
提案の中心となるのは大井埠頭中央海浜公園に隣接する貨物ターミナルの上空に設計する庭園である。今まで人が来なかった野鳥の森公園や城南島海浜公園へのアクセスの向上を図る。また、この地域の良さを 1 つである景観の良さを表現し、物流エリアや公園、その奥に広がる東京湾などを見渡すことができる。庭園に繋がる橋はオリンピックの象徴ともなる 5 つのアーチからなっており、大井埠頭中央海浜公園と共にこのエリアのシンボルとなる。

## オリンピックムーブメントで創る 13 の提案

オリンピックムーブメントである「文化・スポーツ・環境」に沿った 13 個の提案を行う。文化面では品川地区の歴史や文化を継承すること、環境面では既存の自然を活かしたオアシスを造ること、スポーツ面ではスポーツで人を惹きつけることをそれぞれのマスタープランとして提案し、品川地区全域の発展に繋げる。



これらの提案を組み合わせることによって外国人や親子、老人など様々な人がこのエリアで思い思いに過ごせるようになる。オリンピックによって多くの観光客がこのエリアを訪れ、観光の拠点ともなることが予想されるが既存のポテンシャルを活かすことによって品川地区の素晴らしさを世界に広めていけるだろう。



休日の OL の過ごし方

笠原健瑚 日本大学 植物資源科学科 B3  
summer studio で得たこと 「色彩の重要性、字体の活かし方、おもしろさ」

川崎萌 日本大学 植物資源科学科 B3  
「卒業研究のテーマ」

中島一慶 日本大学 植物資源科学科 B3  
「デザインや物事のストーリー性の考え」

奥山英実 千葉大学園芸学部 環境デザイン学科 B2  
「協働して問題を解決する力」

矢野香澄 多摩美術大学 環境デザイン学科 B3  
「デザインの構成力」

神沢学 東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 B2  
「提案の組み立て方」

高沖哉 tutor ヒュマス  
「水上バスの良さ」

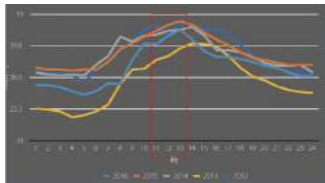
大木一 tutor オットー・デザイン  
「臨海部の可能性と難しさ」

# オリンピックムーブメントを柱に まち全体を公園化

## お台場 / 2020 東京オリパラの現状

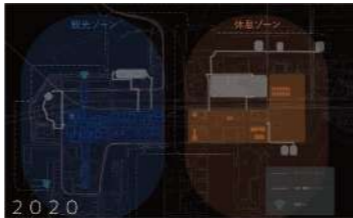


夜になると広大なスケールの港湾施設がライトアップされることと、海を挟んで見れる 360 の夜景が合わさった景色は他では味わえないものと感じた。また、2020 年東京オリンピックが開催される期間は、過去の気温・湿度のデータからスポーツを行うには、とても過酷な条件下になると予想される。そこで、日中と比べて比較的過ごしやすく、お台場の魅力が前面に出る夜に注目し、選手・来訪者・観光客を猛暑から守り、お台場の魅力をオリパラ観戦者に伝えていく仕組みを提案する。



## 提案 2020 年東京オリパラ開催時

オリパラ時、一定の種目を夜間に移す、夜の観光スポットを作るなど、夜のアクティビティを増やすことで選手・観光客・観戦者の身を守ると共に、お台場、そして東京の夜の魅力を伝えていく。オリンピックでより人々が夜のお台場を楽しんで貰えるように「競技」「観光」「発信」の 3 本の軸の柱を立て、「競技者」「観戦者」「視聴者」を絡めてアクティビティを生み出す。西エリアでは観光ゾーン、東エリアでは休息ゾーンに分け、競技終了後にお台場を深夜までいっぱいを使って観光出来る仕組みを作る。



## オリパラ終了後の未来のお台場



オリパラが終わった後も、3 本の柱は残り、お台場の広大な土地を使って様々な活動が起きる場所になっていく。東京のどの街とも無い広大な広い場所を使って、仕事終わり、学校終わりなど、それぞれの空いた時間をいっぱいに使ってこの地で活動を進めていく。Night Activity Park で生まれ変わったプロムナード上では、人の様々な活動によって景色が変わり、何回訪れても毎回違うお台場の顔が見れ、訪れるごとに新しい文化と触れ合える場所になる。



## Night Activity Park in ODAIBA



Activity (活動) に条件は無い。体を動かしたり、創作活動や読書の世界に没頭したり、はたまた趣味を極めて自分の世界に入り込むのもよし。自分の好きな事、やってみたかったことをしにいたり、誰かが何かをしている姿にインスピレーションを貰いに行ったりするのもいい。様々な想い・目的を持った人々がこの場所に集まることで、夜のお台場は賑わいを更に増して行く。



### NIGHT ACTIVITY PARK IN ODAIBA

1 お台場の現状

2 2020 東京五輪の現状

3 提案

お台場の現状: 夜間照明の重要性、観光客の増加、猛暑対策の必要性。

2020 東京五輪の現状: 過去の気温・湿度データ、猛暑による観戦者の苦しみ。

提案: 夜間アクティビティの導入、観光ゾーンの設置、休息ゾーンの設置。

### 4 2020 東京オリパラ開催時 Night Activity Park in ODAIBA

5 オリパラ時の三本柱の機能

6 オリパラ開催後、変化する Night Activity Park in ODAIBA

7 三本柱の機能

2020: 観光ゾーン、休息ゾーンの機能説明。

2021~: オリパラ終了後の未来の Night Activity Park の機能説明。

### 6 オリパラ開催後、変化する Night Activity Park in ODAIBA

7 三本柱の機能

オリパラ終了後も、3 本の柱は残り、お台場の広大な土地を使って様々な活動が起きる場所になっていく。

### 「あなたは夜に、何したい？」

What would you like to do at night?

お台場居住者 resident

外国人観光客 foreign tourists

お台場利用者 etc...

20:00, 21:00, 22:00, 23:00, 0:00, 1:00, 2:00, 3:00











A team

B team

C team

E team

D team

Planning area

2km





## STUDENTS

<b>【芝浦工業大学】</b> 伊藤 健 工学部建築学科 4年	<b>【明治大学】</b> 藤井 彩乃 政治経済学部政治学科 3年	<b>【日本大学】</b> 斎藤 香澄 生物資源科学部植物資源科学科 3年
<b>【多摩美術大学】</b> 矢野 香澄 美術学部環境デザイン学科 3年	三島 らすな 農学部農学科 3年	中村 葵 /
小松 勁太 /	大林 らら 政治経済学部 地域行政学科 2年	笠原 健瑚 /
<b>【千葉大学】</b> 奥山 英実 園芸学部緑地環境学科 2年	<b>【東京農業大学】</b> 堤 裕哉 地域環境科学部造園科学科 3年	川崎 萌 /
<b>【中央大学】</b> 羽賀 拓人 理工学部都市環境学科 4年	神沢 学 /	中島 一慶 /
<b>【東海大学】</b> 新妻 敬弥 観光学部観光学科 2年	岩瀬 晃 /	高橋 沙希 /
佐藤 雄斗 観光学部観光学科 3年	横山 俊輔 /	杉田 真子 /
	川原 嬉生 /	内田 敬基 /
	<b>【東京理科大学】</b> 落合 みずほ 理工学研究科建築学専攻 M1	大山 純平 /
		齋藤 奈那 /
		三玉 璃紗 /
		<b>【立教大学】</b> 鈴木 理央 観光学部観光学科 3年

## TUTORS

吉田 葵 フリーランス	大木 一 (株) オットー・デザイン	井野 貴文 (株) グラック	岸 孝 (株) プレイスメディア
向山 雅之 (株) 竹中工務店	竹山 奈美 (株) 日建設計	小澤 亮太 (株) フィールドフォー・デザインオフィス	
高 冲哉 (株) ヒュマス	杉山 茂樹 (株) 日建設計	小林 祐太 (株) プレイスメディア	

## GUESTS

林 瑞 恵 東京都港湾局 臨海開発部 海上公園課 課長代理 (オリンピック・パラリンピック海上公園計画担当)	田中 伸彦 東海大学観光学部観光学科 教授、関東支部長	山田 順之 鹿島建設株式会社環境本部 グリーンインフラグループ長
町田 誠 国土交通省都市局公園緑地・景観課 緑地環境室長	南後 由和 明治大学情報コミュニケーション学部専任講師	吉村 純一 多摩美術大学美術学部環境デザイン学科教授 プレイスメディアパートナー
和田 浩一 JOA 理事、フェリス学院大学国際交流学部国際交流学科 教授	泉山 壘威 明治大学理工学部建築学科助教	高橋 靖一郎 LPD、関東支部運営委員

### レポート学生編集委員

川原嬉生 (編集長)・藤井彩乃 (副編集長)・高橋沙希 (副編集長)・落合みずほ・斎藤香澄・川崎萌・岩瀬晃・横山俊輔・新妻敬弥・齋藤奈那・三玉璃紗

### 学生デザインワークショップ企画・運営委員

向山雅之 (株式会社竹中工務店)・阿部伸太 (東京農業大学)・高冲哉 (株式会社ヒュマス)・大木一 (株式会社オットー・デザイン)・井野貴文 (株式会社グラック)

